

第1学年 美術科指導案

日時 平成15年10月3日(金) 5校時

場所 花巻市立矢沢中学校 美術室

学級 1年C組 (男14名, 女15名)

指導者 姉 帯 壮 裕

1 主題 視覚遊戯 ～だまされる眼～

2 単元について

(1) 生徒観

中学校に入学してから1学期は「色彩」について学習し、ポスターカラーの基本的な使い方や混色を行ってきた。1学期の授業時間は9時間だけだったが、1年C組は色彩の学習から混色や絵の具の塗り方、筆の使い方等の地味な作業も飽きることなく最後までじっくり進めることができる。しかし、着色した画用紙を使って自分でテーマを決め、自由な発想で自分の考えや思いを構成してゆく段階にはいると、なかなか進めない子どもが目立った。いつかどこかで見たことのある構成であったり、だれかの構成と酷似してたり、「ここは、どうすればいいんですか?」「どうすればいいか分かりません。」「先生、次はどうすればいいですか?」と自ら思考すべきプロセスを放棄して指示を求めて子どもも少なくなかった。このことはこのクラスに限ったことではなく、1学年全体にいえることである。

このような状況を改善するためには、興味関心を高め、子どもの気持ちをぐいぐい引き込むことのできる題材を選定し、自由に発想することの楽しさやおもしろさを十分に味わう必要があると考える。

(2) 教材観

鑑賞については鑑賞領域の第1学年鑑賞学習の内容に基づき、作品に対する先入観や固定的な見方などから自らを振りほどき、心を自由な状態にし、自分なりの見方を持ち、表現の心や意図・内容・技法などを想像しながら鋭敏で柔軟な感性を働かせて作品に向かうことを重点に置いて、錯視図形そのもののおもしろさ、人間だけが感じ、認知できるすばらしさを体験し実感させたい。また、錯視図形の鑑賞をとおして、ものの表面的な部分だけの理解や判断だけでなく、ものには多面的な見方があることに気づき、多面的に見ることで、より深く作品を理解することができることを学ばせたい。

造形活動については、絵皿の持つ機能とイメージを錯視図形の持つおもしろさと不思議さを融合させる。何も共通点のない組み合わせをあらゆる方向から思考し、絵皿と錯視図形を融合させる。このことにより、学習指導要領「A 表現」の基礎的能力に示される「ものの見方・感じ方を深めること」「考えやイメージをまとめ組み立てること」などの表現の基礎的能力を総合的に身に付けられるようにしたい。

(3) 指導観(指導の構想)

題材の導入部分は錯視図形の鑑賞を中心に進める。現1年生の傾向として大半の生徒は一目見たときの印象に縛られやすく、そのものの一面のみを捉えてすべてを知ったように思いがちである。

この状況を改善するために、導入の鑑賞部分については学習のねらいを「錯視図形のおもしろさ不思議さを味わうとともに多面的な見方があることに気づかせる。」とし、子ども先入観や固定的な見方に偏りがちな傾向を振りほどきたいと考えている。

造形活動としては鑑賞した錯視図形から反転図形やメタモルフォーゼ等の図形を利用した絵皿の作成とする。普段使っている素材の機能やイメージをあらゆる方向から考えこのふたつを融合させたデザインを考えてゆく。このことから、全く共通点がないと言えるふたつを多面的に捉えることから、創造的構想力・構成力を育てたい。

3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
錯視図形に関心を持ち、そのおもしろさや不思議さに気づき、その効果を試している。	多角的、多面的にものをよく見取り新しいものを考え出すことができる。	自分の考えやイメージを表す造形感覚、美的感覚を創造的に生かす基礎的技能を身に付ける。	先入観や固定的な見方を振りほどき、表現の工夫を感じ取り、見方を広げることができる。

4 題材の指導・評価計画（9時間扱い）

時間	ねらい 学習活動（指導内容）	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞の能力
1 （本時）	錯視図形のおもしろさ、不思議さを楽しむ。 錯視図形をとおして多面的なものを見方や考え方、感じ方があることに気づく	錯視図形のおもしろさ、不思議さを楽しむことができる。			先入観や固定的な見方だけでなく、多面的な見方や考え方があることに気づくことができた。
2	表現の導入段階として反転図形やメタモルフォーゼ等を鑑賞し、自分の考えやイメージをまとめる。	反転図形やメタモルフォーゼのおもしろさ不思議さを楽しむことができる。	反転図形やメタモルフォーゼのイメージを思い浮かべることができる。		反転図形やメタモルフォーゼの原理に気づく。
3 4	反転図形・メタモルフォーゼの原理を利用し絵皿のデザインに応用する。	創意工夫し、作品のおもしろさや不思議さを表現しようと取り組んでいる。	反転図形・メタモルフォーゼの原理を応用し独自のおもしろさを追求できる。	自分なりの表現の中に図形のおもしろさや不思議さを表すことができる。	
5 8	よりよい表現のための工夫や新たな課題の発見や自分のよさや学習で得たことなどを発見し確認できる。	最後まで丁寧に仕上げる。	構成上のバランスや中心になるところを確認する。	どこを削るのかはっきりさせ丁寧に削る。	
9	お互いの作品を批評し合い、お互いのよさや考え方を理解し合う。	他の作品に錯視図形のおもしろさや不思議さを発見することができた。	作品がどんな思いや考えで制作されたかを理解することができる。		他の作品がどんな効果をおねらって作られているのかを知ることができる。

5 本時の指導

(1) 授業の構想

最初に見たときの印象やイメージに縛られることが多く、そのものの一面だけを捉えてしまう傾向にある。しかし、ひとつの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこでこの授業では、錯視図形の鑑賞をとおして、ものには一面性だけでないことやそれに気づく目や心を持つことの大切さを学ばせたい。

(2) 目標

- ・錯視図形やだまし絵、かくし絵などのおもしろさ、不思議さを楽しむ。
- ・錯視図形等をとおして多面的なものの見方や考え方、感じ方があることに気づく

(3) 本時の判断基準

観点	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への具体的な手だて
美術への関心・意欲・態度	錯視図形等の構造や理論に深く関心を持ち、そのおもしろさや不思議さに気づき楽しむことができた。	錯視図形等に関心を持ち、そのおもしろさや不思議さを気づき楽しむことができた。	錯視図形のおもしろさや不思議さに気づくことが困難な場合は個人指導により映像や紙面上で錯視図形の見方を理解する。
鑑賞の能力	先入観や固定的な見方・考え方から脱却し、多面的なものの見方や感じ方を深めることができた。	先入観や固定的な見方・考え方から脱却し、多面的なものの見方や感じ方に気づくことができた。	一目見たときの印象に縛られがちな生徒場合は、紙面のかくし絵等を利用して個別に指導する。

(3) 展開 (本時)

過程	学習活動	評価基準・評価の方法	指導上の留意点
導入	<p>本時の学習内容を知る。 視覚をテーマにして授業を進めることを知る。</p> <p>「なんと読めるか？」という映像にて本時の学習課題を知る。</p>	<p>本時のテーマ内容を把握する。(観察法)</p>	<p>子ども一人一人が課題を受け止め、進んで学習活動に向かう意欲やクラスの雰囲気をつくる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>学習課題 「いろいろな方向から、見たり・考えたりし新しい発見をしよう。」</p> </div>			
8分	<p>【映像資料：MilkyWay】</p>	<p>本時の学習課題を把握する。(観察法)</p>	

展開	<p>錯視図形や 反転図形等を鑑賞</p>	<p>反転や図と地の関係 を理解させる。</p>
	<p>【映像資料：シュレーダーの 階段等4点】</p>	
	<p>だまし絵やかかし絵 を鑑賞</p>	
	<p>見るという働きには、思いが けない一面があること、一瞬 のうちに判断してしまった絵 に、別の絵を見ることは難し いことを知る。</p>	<p>錯視図形や反転図形、 かかし絵、だまし絵の 持つ多面性を理解し、 そのおもしろさや不思議 さを気づきくことが できた。 (感想カードより評価)</p>
	<p>【映像資料：レディと老婆等】</p>	
	<p>ムンクの「叫び」を鑑賞</p>	
	<p>ムンクの「叫び」を鑑賞しな がら「叫び」が訴えるものと は何かを理解させる。</p>	<p>作品の表現から作者の 心情や意図などを想像 する感性を働かせるこ とができる。 (感想カードより評価)</p>
	<p>【映像資料：ムンクの叫び】</p>	
25分		<p>先入観や固定的な見方 ・考え方から脱却し、 多面的なものの見方・ 感じ方に気づくことが できた。 (感想カードより評価)</p>
まとめ	<p>感想カードに記入する。</p>	<p>書き出せない子ども には個別指導を 行う。</p>
	<p>シュアリング</p>	
15分	<p>2～3人程度の感想を聞く。</p>	<p>他の人の考えや感じ方 ・気づきを理解する。 (観察法)</p>
次時の 予告 2分	<p>次時の予告を見る。</p>	<p>次時への興味関心 期待感を高めるた めインパクトのあ るものにする。</p>